キャンパス万華鏡　大学×SDGs　写真が語る大学の横顔

書道部が書道体験企画を実施（SDG11）

帝京大学

留学生と日本人学生の交流や、日本文化を体験してもらうことを目的に、帝京大学の書道部が書道体験企画を実施。書道部員から姿勢や筆の持ち方、筆の運び方を学び、横線、縦線、払いの練習をした後、書道の基本技法8種すべてが含まれる「永」の字を練習した。書道部員が一人ひとり丁寧に指導し、参加した約20人の学生たちは書道を楽しんだ。最後におのおのが好きな文字を清書し、個性あふれる作品が完成した。

献血は身近な社会貢献

日本ウェルネススポーツ大学

日本ウェルネススポーツ大学は国連アカデミックインパクトに加盟し、学生と社会貢献活動を行っている。大学の名称にもある「ウェルネス」にちなみ、SDGsゴール3「すべての人に健康と福祉を」を推進している。茨城県赤十字血液センターや大学所在地の利根町と連携し定期的に大学で献血を実施し、学生自身や地域の方々の健康のチェックと交流の場の機会がうまれている。SDGsの活動としてこれからも献血を継続していく。

開発途上国寄付金付きメニューの提供

淑徳大学

淑徳大学では、学生自らが SDGs の知識を得て社会問題を理解し、主体的に SDGs の目標達成に向けた取り組みができるよう支援している。なかでも看護栄養学部では学生食堂委託業者であるMKF グループ株式会社 の協力のもと TFT プログラムに参加し、発展途上国の給食費となる 20 円を付加したメニュー（ TFT メニュー）の提供を実施した。寄せられた募金は「特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International」を通じて、東アフリカの学校給食プログラム支援に役立てられている。

食×SDGsランチプレートを販売

東京家政学院大学

東京家政学院大学人間栄養学部の加藤理津子准教授ゼミでは、管理栄養士の卵であるゼミ生が食の面からSDGs活動に取り組んでいる。今年は食料輸送にともなう環境負荷の指標である「フードマイレージ（食料の輸送量×輸送距離）」をテーマに、「多くの人に SDGs を身近に感じてもらいたい」との想いから国産の米粉や野菜のみを使用したランチプレートを完成させ、日比谷パレスで9月1日～30日まで販売し、来客者やスタッフから高評価を得た。

合同ゼミによるポスターセッション

敬愛大学

敬愛大学の教育学部では、2021年度から1、2年生合同でゼミを展開している。前期は、4～5人（異年齢混合）のチームに分かれ、SDGsをテーマとしたプロジェクトに取り組み、その成果をポスターセッション形式で発表。31チームが二手に分かれ、40分の持ち時間で発表を繰り返す。昨年度プロジェクトを経験した3年生有志が審査し、上位8チームが12月に行われる「敬愛SDGs集会」で発表することになっている。

地域とともに考えるSDGs

八戸学院大学

八戸学院大学は、2020年度から「八戸SDGsフォーラム」を毎年開催している(2021年度は新型コロナ感染状況によりオンライン開催)。同フォーラムは、地域経営学科の企画・調整と人間健康学科・看護学科との協働の下で、八戸市内の高校生の探究学習や本学学生の研究活動の成果を発表し、それに対して三学科の教員が講評する形で、市民に持続可能な地域社会のための課題とその対策を知ってもらうことを目的としている。

福島の企業とSDGsタオルを企画・販売

神田外語大学

神田外語大学の学生団体「リベラメンテ」は、福島県の復興支援の一つとして、撚糸工場を運営する浅野撚糸(株)とSDGsの観点からコラボ商品を企画。企画した商品は、浅野撚糸(株)と双葉町が共同開発した「ダキシメテフタバ」に、学生考案の本学オリジナルロゴを刺繍したハンカチとフェイスタオル、それぞれ3色。学生たちは、双葉町に新設された事業所を実際に訪れ、福島大学出身で震災復興を支える浅野社長の思いに共感し、企画・販売に至った。

万博にむけてSDGsの機運醸成に貢献

森ノ宮医療大学

森ノ宮医療大学の位置する大阪で、2025年に開催される「大阪・関西万博」のテーマは“いのち輝く未来社会のデザイン”。サブテーマとしてSDGsが組み込まれている。このテーマが、来春3学部8学科となる関西最大級の医療系総合大学である同大学の事業と親和性が高いということで、機運醸成に協力している。近隣企業等と共同で「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジに登録したり、学内に大阪・関西万博支援自販機を設置などもしている。今後学生たちが主体となるイベントの企画も検討している。

識字教室の学生ボランティア活動

神戸親和大学

「阪神・淡路大震災」の時、避難先での掲示板の文字が読めないなど、不便で悔しい思いをした非識字者の現状が浮き彫りになったことをきっかけとして、識字教室が地元神戸に立ち上がった。神戸親和大学の学生もボランティアスタッフとして参加し、文字を学ぶ学習者に教える経験を積んでいる。教えるスキルを上げる場になると同時に、学ぶことができる環境に対する感謝の気持ちを感じる貴重な機会ともなっている。

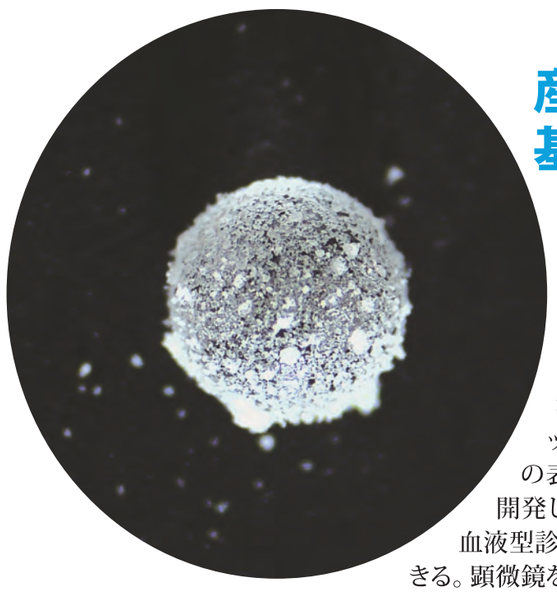
地域課題をグローバルな視点で取り組む

大阪樟蔭女子大学

大阪樟蔭女子大学では、「大学での学びを地域の課題解決につなげる」をコンセプトに学生主体の課外活動として「イキ×ラボ」チャレンジプロジェクトを2015年より展開している。学生は自分たちでメンバーを集め、「子育て支援」「街の活性化」「食品ロス」「海洋プラスチック問題」など地域課題のテーマを設定し、プロジェクトを作り解決に向けて、自治体や企業、そして地域住民とともに活動を展開。そして2022年よりこのプロジェクトはSDGsの17のターゲットともリンクし、さらにグローバルな視点に立って活動を行っている。

産業と技術革新の基盤をつくる

大阪工業大学



産業を支える材料の社会実装を目指す大阪工業大学応用化学科の藤井秀司教授の研究グループは、液体を固体粒子で覆った液滴（リキッドマーブル）の安定化に成功し、その表面形状をコントロールする技術を開発した。この技術は微小量の血液での血液型診断、センサーなどへの応用が期待できる。顕微鏡を使用して撮影された白く美しいリキッドマーブルの写真は、フランス大使館主催のサイエンスフォトコンテスト2023「科学の幽玄-Beauté cachée de la science」で準グランプリを受賞した。